

外国人が見たニッポン

東方見聞録

16



日本の世直しは、外人部隊におまかせ!?

日本語が上手で、日本をよく知っていて、

日本を好きな外国人が発言を繰り返すと、大きな力になる。

欧米人は日本人に比べると自由な立場にある。

日本人は欧米人に對して寛容である。

外国が関心を向けたり、外国のマスコミが騒いだら、

日本人は耳を貸す。

だから、心ある外国人はその立場を活用しようと考へている。

私たち日本人は、日本の国のことを持たにまかせたままでいいのだろうか。



パソコン通信で、世界中の人々とのネットワークづくりに情熱を傾けるクビアックさん。
人を愛し、自然をこよなく愛する人もある。



デイビッド・クビアックさん

1945年、米国オハイオ州ケント生まれ。ボードウイン大学で心理学と哲学を学び、1967年卒業。同年、平和部隊の一員として韓国で奉仕活動に従事。1970年、来日。大学講師、ロック喫茶やライブハウス経営、雑誌記者など、さまざまな仕事を通じて人間ネットワークづくりを始める。1988年、京都市左京区に京都国際市民アクセスセンターを設立し、パソコン通信で日本と世界を情報で結ぶ活動をしている。1990年4月、「地球再創造・京都会議」を他3団体と共に催す。

特集 デイビッド・クビアックが見たニッポン



CONTENTS 特集 デイビッド・クビアックが見たニッポン

わが故郷と日本	③
日本の市民運動	⑨
市民外交	⑪
シリーズ放談・世界の中の日本	⑯ ⑯
ピルッコ・ランタマ(フィンランド出身)／灘神戸生協	㉔
一ノ瀬伯子・ルイザ(ブラジル出身)／祭り	㉗
デビッド・ライト(ニュージーランド出身)／砂浜	㉙
カノックポーン・ケンチャク・森田(タイ出身)／カブト虫	㉜
スティーブ・グラフ(アメリカ出身)／ノーマイカーデー	㉝



精神科医になりたかった。
でも、机上の学問重視のシステムにはついていけなくてね……。



1960年、15歳ごろ、アメリカ・オハイオ州ケントの郊外の自宅で。

私が生まれたのは、アメリカ・オハイオ州のケントという小さな町。大学があったから、人口のほとんどが大学関係者でした。6歳くらいまで住んでいたけど、僕の体と心がしつかりと覚えてるのは、その後移った農場ですね。ケントの郊外、小規模の家庭農場がたくさんあるような田舎でした。我が家で40ヘクタールくらい。

とにかく動物の中で育ったようなものです。ウサギ20羽、ニワトリ300羽、羊60頭、牛4頭、それから犬と猫がゴチャゴチャと数えきれないくらい（笑）！ まだ9歳ごろだったけど、ほとんど一人で面倒みていた。家族？ 農場といつたって、それで生計を立てている人はいませんからね。父はケントで家具や電化製品の小売店を経営していたから、毎日出勤するでしょ。妹たち（5歳下と7歳下）はあまりにも幼いから、なんの役にも立たないし、母は、子育てや家事、それに父の商売の手伝いなど、とにかく忙しいから、結局僕しかいない（笑）。

街の人は農場とか牧場とかいうとあこがれるけど、大変！ うちの隣なんか、60歳くらいのおじさんがトラクターを使わずに、昔ながらの馬力で畑を耕していた。絵になるし、詩的でいいけど、しんどいよ（笑）。

でも、いまだつたらコンピューターで仕事ができるから、そういう環境もいいかな。特に五感を忘れがちになる時代だからね。

大学はメイン州のボードウイン大学。心理学を専攻しました。心理学にも流行みたいなものがあつてね、そのころは実験的な心理学が主流だった。ネズミに電気ショックを与えるなどの実験をしてたわけ。もうそんなのばっかりで、僕としてはもっと違う方面も勉強しちゃくて、どうとう教授とケンカ(笑)途中から哲学へ行っちゃった。

実は精神科医になりたかったんですね。うちの大学には、医者か法律家になろうという人が7割くらいいたかな。でもね、日本のシステムと違つて、4年間は一般教養をみつりやるんです。それから医科大へと進む。医科大の入試はすごく難しくてね、併せてそれまで大学で何を学んだかが重視される。だから、基礎科学をしつかり勉強

直してあげたいんです。生きている人間の体や心と結びついた医学を勉強したかった。でもそういう人はダメ。学者としての医者しか認められなかつた。つらいなあ…。

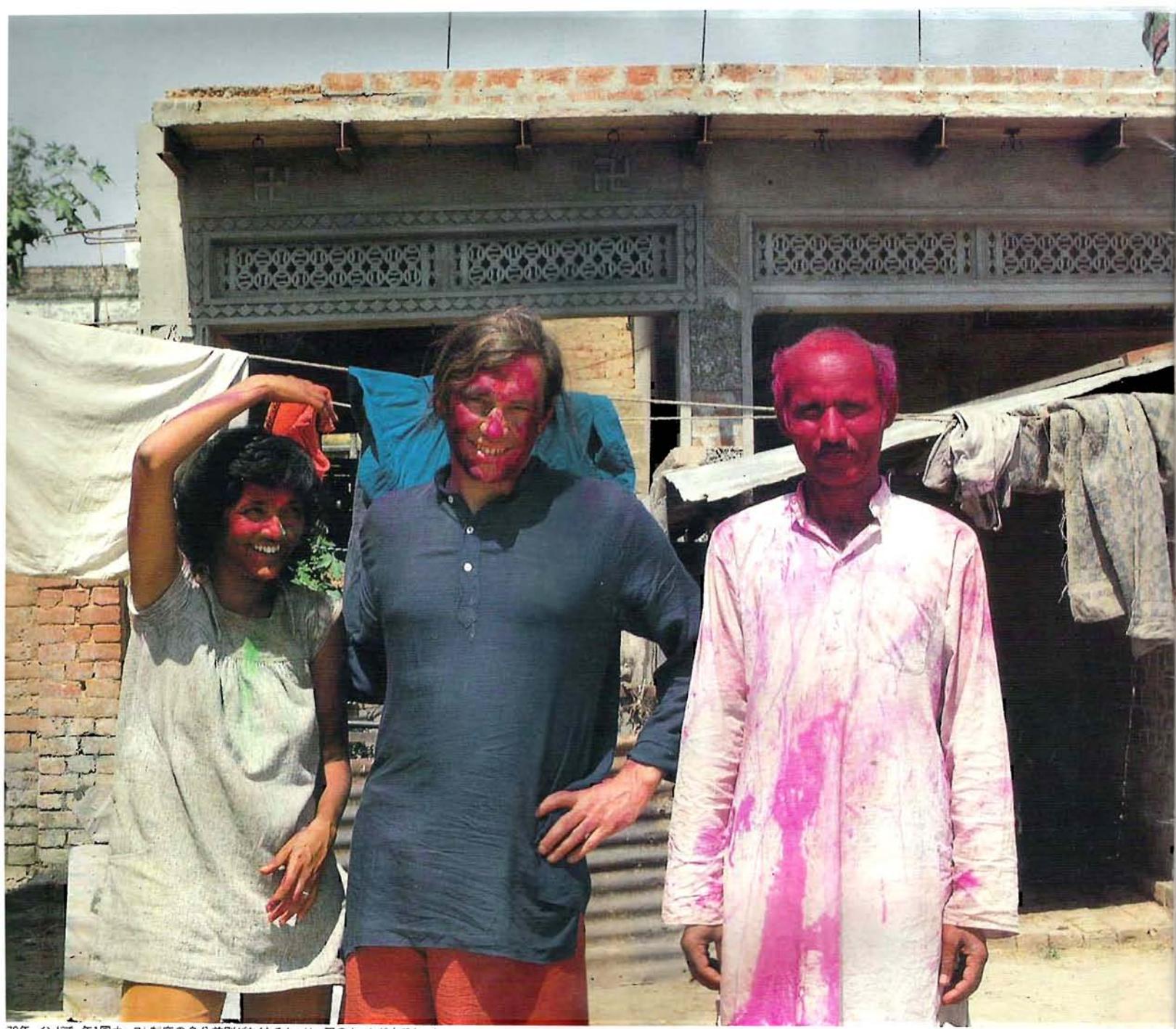
そんな中、大学を1年休学して、カリフォルニアの精神病院でボランティアをしたんです。実際の病院で経験しきみた結果、アメリカの制度の中で医学を学びたくなりました。アジアに興味があつたし、シェバイツァー博士のような生き方にひかれていたから、医科大に入る前に仕事をしたい国を体験してきた方がいいんじゃないかな」と、平和部隊に入ったんです。

平和部隊ではボランティアでさまざまなかつた。生地手、看護手、衛生手、生理学、病理学…これも実際にかなりの机上の学問なんですね。僕たちは韓国。ええ、ジュディス・A・

67年、平和部隊の一員として韓国へ。保健所や市役所でさまざまなボランティア活動を行った。



→メイン大学時代はヨット部で活躍。



78年、インドで。年1回カースト制度の身分差別がなくなるホーリー祭のまっただ中であった。



京都での恩師・ジャック・マディソンさんと。



コンピューターで日本と世界をネットワーク。KOSACは、行動力ある情報基地つてところかな。

目を合わせて、直接話す。食べるものもないし、服も着たきりの人が「どうして私はこの状態で、あなたがそんな状態なのか?」って(笑)。答えようがないでしょう。とにかく8ヶ月ほどインドを体験してから、僕の考え方はずつと変わってきた。

もう一つ、以前から「気」というものに関心を持つていてね、日本でも鍼灸の学校に入ったりして定義づけようと思ったけど、うまく説明できなかつたんです。インドで初めて精神面での「気」がなんとなく分かってきた。“気をつける”というでしょ。気をつかうところによつて、意識が変わつてくる。気を家庭につかうと、家庭がどんどん面白くなつてくる。子供につかうと子供はたくましくなるの。人間の一番大切な資源は“気”だと思うね。自分の気をどこにつかうかによつて、自分

の人生が決まつてきます。こういう考えは、西洋心理学には一切ない。日本語には、“氣立て”“氣分”“氣落ち”“氣になる”……って“氣”的つく言葉がいっぱいあるでしょ。これは英語では表現できない言葉です。

「なるほど」と思ったね。注目される人は、周りの人から気をたくさんもらつている。だから、その人に元気と精力が出てくる。ところがストレスをかけると元気もなくなつてしまつ(笑)。日本人は気を会社につかつてゐるね。だから、家族のことまでエネルギーが回つてこないわけですよ。…と考えると、日本の團結心と組織力が初めて理解できる(笑)。

それから後も日本とインド、アメリカを行つたり来たり。その間、雑誌社の仕事で、アメリカの有名人ばかりをインタビューして記事を書いたりしたけど、これは彼らを一つのネットワークにして、いすれ新しい考え方を発生させようと思つてたから。

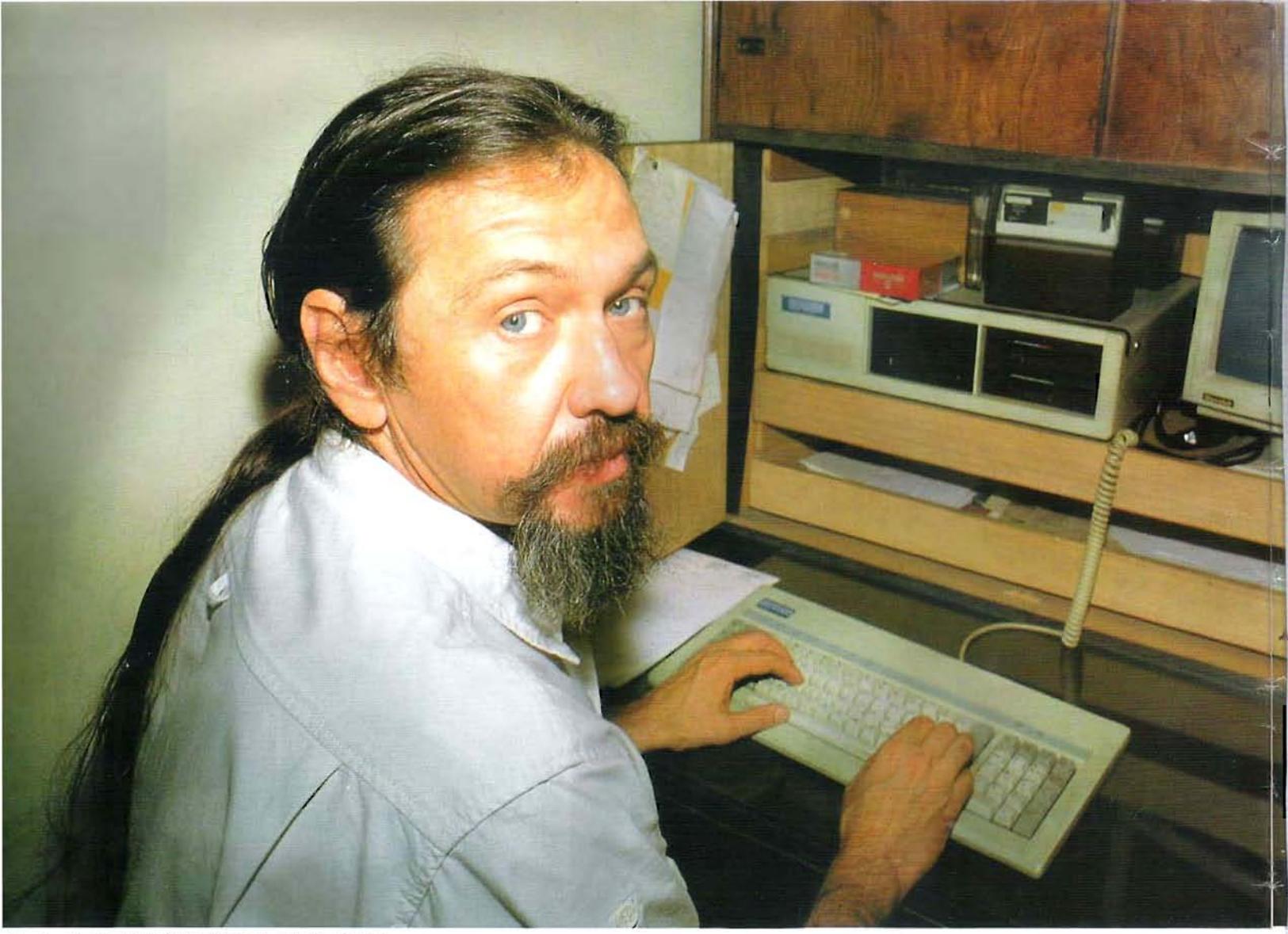
そして、1988年、京都国際市民アクセスセンター(KOSAC)を発足させました。いや、別に難しいことをしているんじゃない。いろんな形で活動している市民運動を国際的なコンピューター・ネットワークでつなごうといふもの。日本じゃ、海外からの情報



Kubrick's house in Kyoto, a traditional Japanese building. A white van is parked in front.



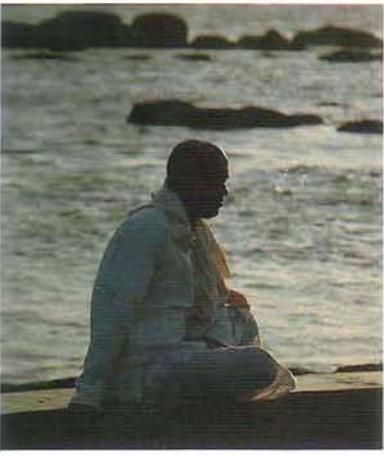
America's famous people were interviewed by CAT to write articles. This was also a network creation page.



ピューター・ネットワークで世界の市民運動とコミュニケーションをはかる。

はたくさん入ってくるけど、日本からはほとんど発信しない。おかしいでしょ？だから、コンピューターでやろう！だってね、それが一番早くて安い。もつともっと日本人はコンピューターを使いこなしてほしいね。

いま、KOSACが接続しているネットワークは4つあります。①PEACE CENET(平和・市民外交・人権問題)、②ECONET(環境エネルギー・農業問題)、③CARI NET(第三世界の開発・援助問題)、④THE WELL(緑の政治・トランスペリソナル研究)です。毎日毎日、電話やFAX、そしてコンピューターから、どんどん情報が入ってくる。雑誌やニュースレターも送られてくるしね。もちろん、日本人や外国人も集まっています。こうしたシンクタンク的存在の人たちとさまざまな機会にブレーン・ストーミングを開いてる。初めはね、日本人も外国人もないからって、一緒にやってたけど、言葉の壁があるでしょ。いまはある程度分けています。いまは充実期に入ってきた。KOSACが情報基地として本格的に行動に移し



インドで初めて精神面での「気」に気付いたという。





目的より組織づくり、ビジョンも欠落。
もつと効率のいい運動を考えるべきだ。



これまでずいぶんたくさん市民運動を見てきたし、参加もしてきました。環境問題にしろ、人権問題にしろ、同じ目的を持った人が集まって解決にあたるのはいいんです。ただね、一つの問題が終わっても組織 자체は消えていかない。だんだん組織そのものが目的より大切になってしまって。要するに、組織を運営するためには、だれが上に立つとか、権威の使い方はどうとか…、そのうちにそつちにエネルギーを使うようになってくる。どの国でもある程度は同じなんだろうけど、日本ほどエネルギー——“気”をそんなことにつかう団体づくりを見たことがない。互いに長い付き合いいろいろ話をし、それはそれで人間性を守るためにいいんだけど、政治的効果を高めるためには非常に効率が悪いね。

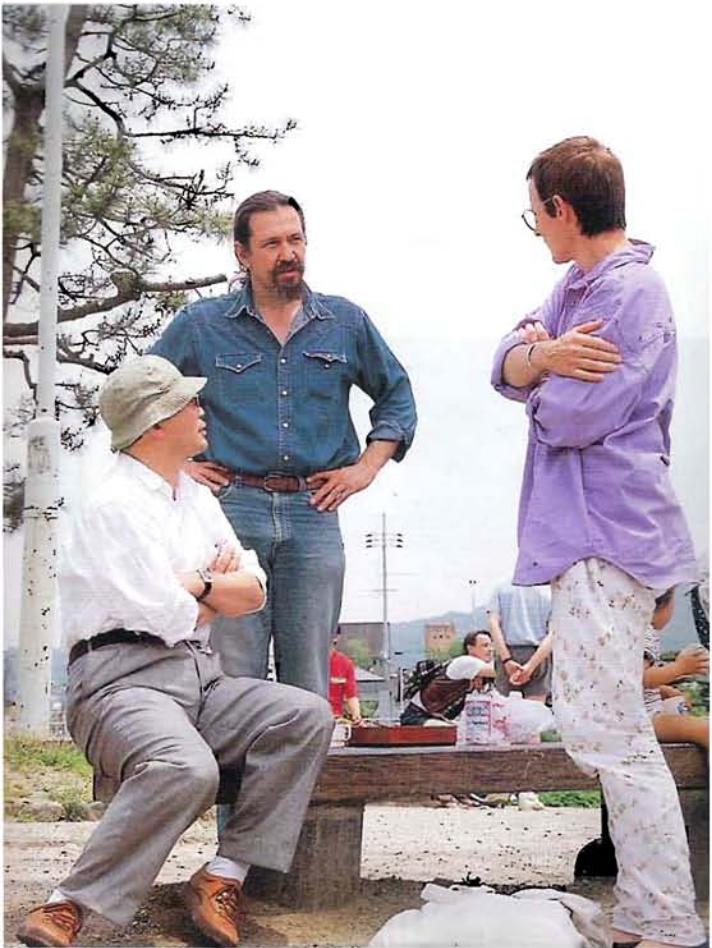
でもね、最近はちょっと変化がある。反原発とか食物の有害残留物とか、これは抽象的なイデオロギーとは関係なく、ただただ自分の子供の将来への恐怖があつて動きだす人が増えてきた。肩書きや運動の構造なんていらないんです。組織の縦社会を拒否している人のエネルギーはすごいよ！

僕は、そういう人たちもコンピューターのネットワークでつなぎたい。日本人は会合をもつて、いざ話をする

これまでずいぶんたくさんの市民運動を見てきたし、参加もしてきました。環境問題にしろ、人権問題にしろ、同じ目的を持った人が集まって解決にあたるのはいいんです。ただね、一つの問題が終わっても組織 자체は消えていかない。だんだん組織そのものが目的より大切になってしまって。要するに、組織を運営するためには、だれが上に立つとか、権威の使い方はどうとか…、そのうちにそつちにエネルギーを使うようになってくる。どの国でもある程度は同じなんだろうけど、日本ほどエネルギー——“気”をそんなことにつかう団体づくりを見たことがない。互いに長い付き合いいろいろ話をし、それはそれで人間性を守るためにいいんだけど、政治的効果を高めるためには非常に効率が悪いね。

でもね、最近はちょっと変化がある。反原発とか食物の有害残留物とか、これは抽象的なイデオロギーとは関係なく、ただただ自分の子供の将来への恐怖があつて動きだす人が増えてきた。肩書きや運動の構造なんていらないんです。組織の縦社会を拒否している人のエネルギーはすごいよ！

僕は、そういう人たちもコンピューターのネットワークでつなぎたい。日本人は会合をもつて、いざ話をする



市民運動とマスコミが同じテーブルについて話し合うことができた、環境国際会議「地球再創造・京都会議1990」。その関係者が京都・鴨川で打ち上げ会を開催した。このページの写真はすべて当日のスナップ。



なると、どうも遠慮しちゃうのね。本音じゃないと分かっていても、タテマエが前に出る。でもね、コンピューターだと顔が見えないから、もういいたいことをいつてくる。これはね、アメリカのネットワークよりずっと面白い。池の氷を一度割つてしまふと、自由に自分の言葉で語りかけてきます。

もう一つ、日本の市民運動に足りないものが、ビジョン。社会的な代案や市民運動にとっての新しい政策案をだれも提案していないんですよ。ま、市民運動の大多数は、反対運動だけど、みんなこの闘いに多くの時間と労力をさき、そして敗北を味わってきたはずです。たとえ勝利をこの手にしても、その問題を中止させたり、延期に追いこんだのにすぎない。新しいあるいは永続性のある価値はほとんど見いだされてないの。違いますか？ つまり、いまの市民運動のはとんどは勝利のないゲーム。敗北か、よくて引き分け。単に反対するだけじゃダメなんです。私たちが働きかけていく世界に対して共有できるビジョンをつくりだしていかなくては…最終的に何をそこから引き出すか、ということ。

いまね、KOSACでは一つのネットワーク——GENNONSET(玄能ネットワーク)を広げて行こうとしているんです。天皇制がいろいろ取り沙汰されているけれど、天皇制にYESかNOかじやなくて、もう一度、原点から考えてみようということ。現天皇家は北朝だけど、忘れられた存在の南朝もある。その南朝をクローズアップして、討論して行こうとしています。ええ、もちろん誤解や反発はあるでしょうし、覚悟はしている。でもね、僕はこのネットワークで、最終的には国民の直接投票権を獲得したいんです。

市民運動の真髄は、そこにあるんじやないかな。ほんとうの民主主義はそこ



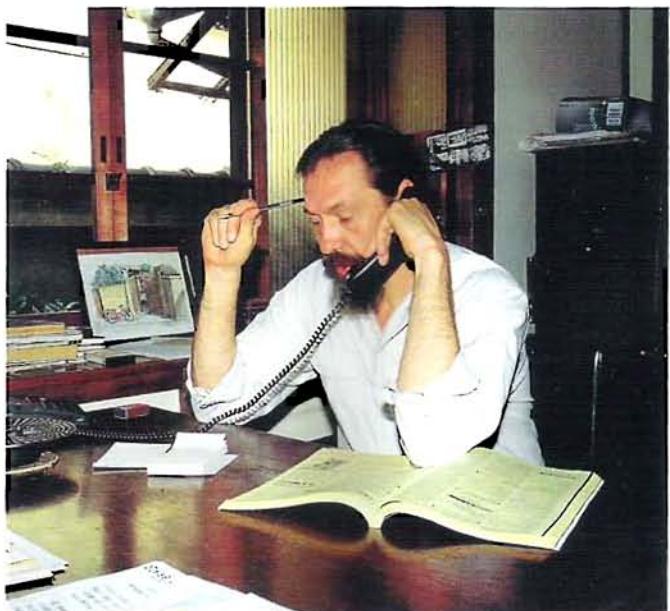
ほんとうの国際化のためには、国を通さない方がいい。
市民の日常生活レベルの交流が一番！



京都・京北町のゴルフ場建設予定地を調査するKOSACのメンバー。

「国際化」という言葉を1日に何度も耳や目にしますか? とにかく、新聞も週刊誌もTVも…、国際化の大安売り。ね、国際化というと、外国の本を読んだり外国語を勉強したり、海外旅行に出かけること? いや、最近じゃ、外国に土地を買うことこそ国際化…、と思つてゐる人もいるみたいね(笑)。

京都市に限つていうとね、国際化の



電話、FAX、パソコンから、ひっきりなしに情報が入ってくる。



お年寄りにも、気軽に話しかけるクビアックさん。

掛け橋と称して、8つの都市と姉妹都市を結んでいる。それだけ聞くと、素晴らしいな…と思いがちだけど、私は疑問です。まず、相手都市のほとんどが白人都市だということ。北アメリカとヨーロッパ、そして白ロシア、唯一アジアに一都市。日本の文化、宗教、経済に大きな影響を与えてきたアジアですよ。それにね、京都市民の中で、

によってこそ達成できるものだと思う。もつと、一般市民の日常生活のレベルでの外交や交流が大切です。

僕たちは、それを“市民外交”と名付けたんだけど、これもコンピューター・ネットワークの具体的な一つの例。昔なら、現地に出かけるしかなく、費用もバカにならなかつた。でも、いまじやテレコミニケーションが可

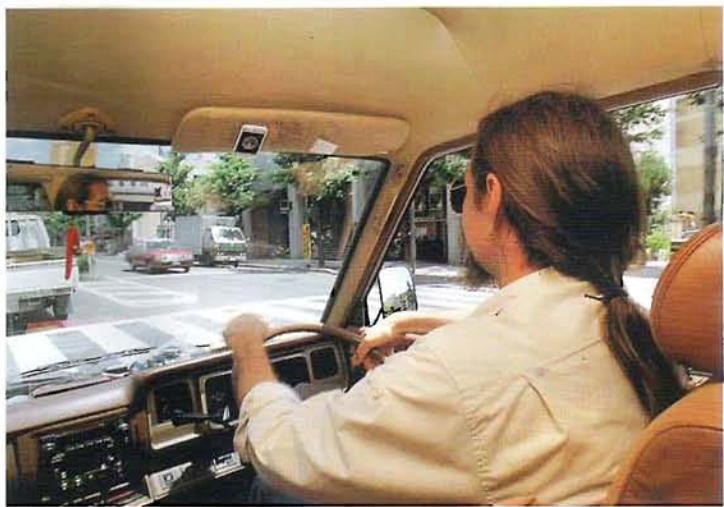
してその都市のことや人々の生活を知つている人は何人いますか? ほとんどのままいませんよ。つまりね、京都市の姉妹都市提携プログラムというのは、お役所のトップ同士によるコミュニケーーションだけなの。これじゃあね…。

ほんとうの国際化とは、行政機関や大企業といった大きな組織のタテマエ的活動じゃない。心の触れ合う人間的なもの、一人ひとりや小さなグループで、まずインドとの市民外交の旅にかけたの。去年の春のことです。参加したのは11人。6歳の女の子や主婦、大学生、会社員…と、いろんな人が集まつた。でもね、市民外交自体に興味を持つている人って、ほとんどいないよ。頭では理解してもね。インドに興味を持つてる、インド料理に興味がある、ヨガをやりたい——なんて人ばかり。京都とアジアの町を結ぶためには、イメージを持つたり、体験がある、という人が95%ね。でも、僕はそれでいいと思う。そこから出発する、自分の一番関心があることから、自分なりの外交をやればいいんです。

ま、それはそうと、僕たちはインドのデリー、アグラ、ジャイプール、ウダイプールの4つの都市を訪ねて、一般家庭の生活も体験しました。それからね、セワマンデル(民間ボランティア団体)や学校、染色工場、マハラジャの住む宮殿も訪ねた。短期間のあつと会つて、話して、触れて、それぞれにすごく大きなものを得たと思う。もちろん、ここで満足はしてませんよ。これからスタートだもんね。

インドへの市民外交ツアーリポート

最後の日、6歳の女の子は「インドの子供になる」と泣いたんです。



足がわりのワゴン車で、次の目的地へ。

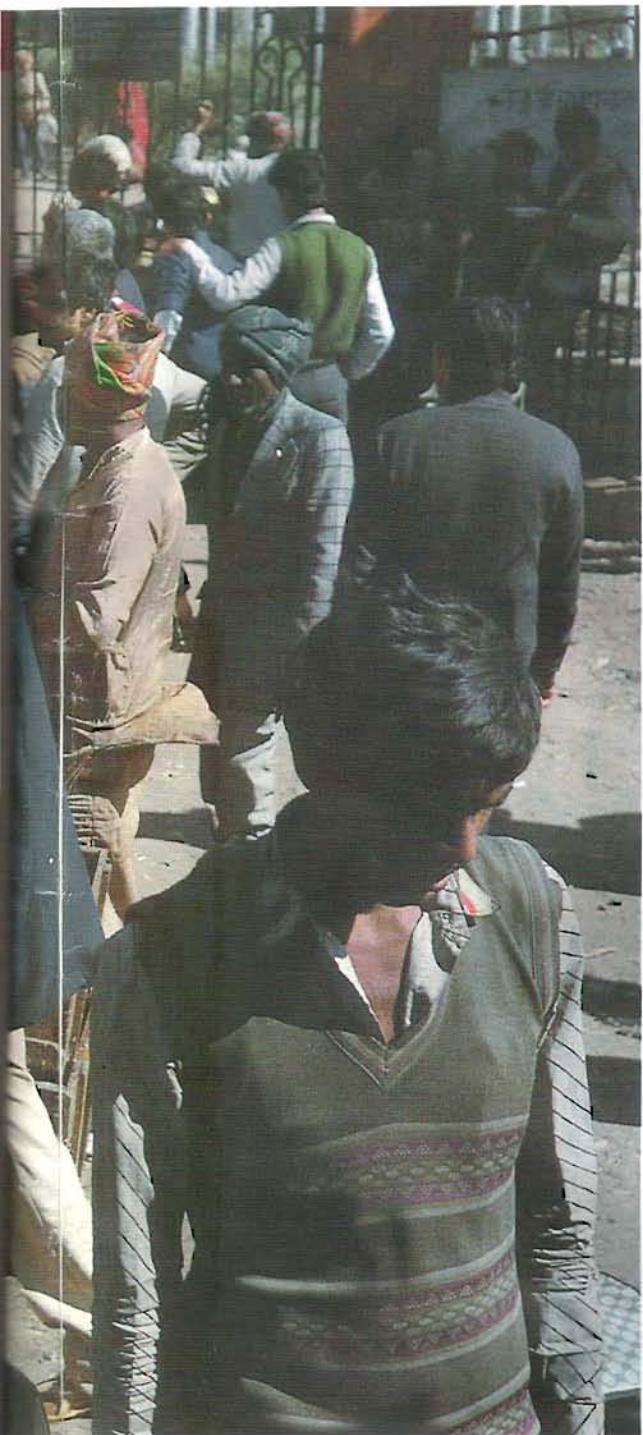
最年少の6歳の女の子、都ちゃん。何でも「ゾウさんに乗れるよ」の一言で参加したんだって(笑)。でもね、子供はすごいよ。インドの子供たちと仲良くなって、彼らからアイスキャンデーをもらつたんだけど、衛生面で危ないから食べちゃいけないといわれちゃつた。もう、思わず涙がポロポロ…。彼女はこれを食べるとインドの子供たちが喜ぶことを知つてたのね。もっと通じ合えることを幼いながら分かつてたんだ。それから、日本へ帰るという日もこんなことがあつたの。旅でお世話になったインド人のヒロさんのそばを都ちゃんが離れない。なぜかな?と思つたら、なんと「ヒロさんの子供になる」(笑)。それぐらいインドに魅せら

れてしまつたわけ。それもダメだとわかつて、また涙。お母さんによると、普段はめつたに泣かない女の子だつて…。みんな感動しちゃつたよ。ね、子供が一番の外交官!

さて、帰つてからもタイヘン。参加メンバーを中心に、インド勉強会「シリクロードの会」を結成して、毎月、いろんなことをしています。そんな堅苦しいことじゃなくて、インド料理店のシェフにインド料理やスパイスについて話を聞いたり、あとはワイワイ食べたり飲んだり…。もつともっと気軽にインドを知りたいから、ヨガ、舞踊など、毎回テーマを決めて勉強しています。楽しい集まりだから、いろんな人に参加してほしいな。

その後も、インドへ市民外交ツアーリポートを組んで、植林プロジェクトに参加して、インドの地域的なエコロジーについて学んでいます。国を通さない市民レベルの外交だから、社交辞令なしの本音外交。当初考えていた以上に成功してゐみたい。お互いにすごく興味を示してきてるものね。

そうそう、インドでは、京都在住のインド人女性の舞踊公演も開催したんですよ。彼女は京都生まれ。3歳から学んだインド舞踊とニューヨークで学

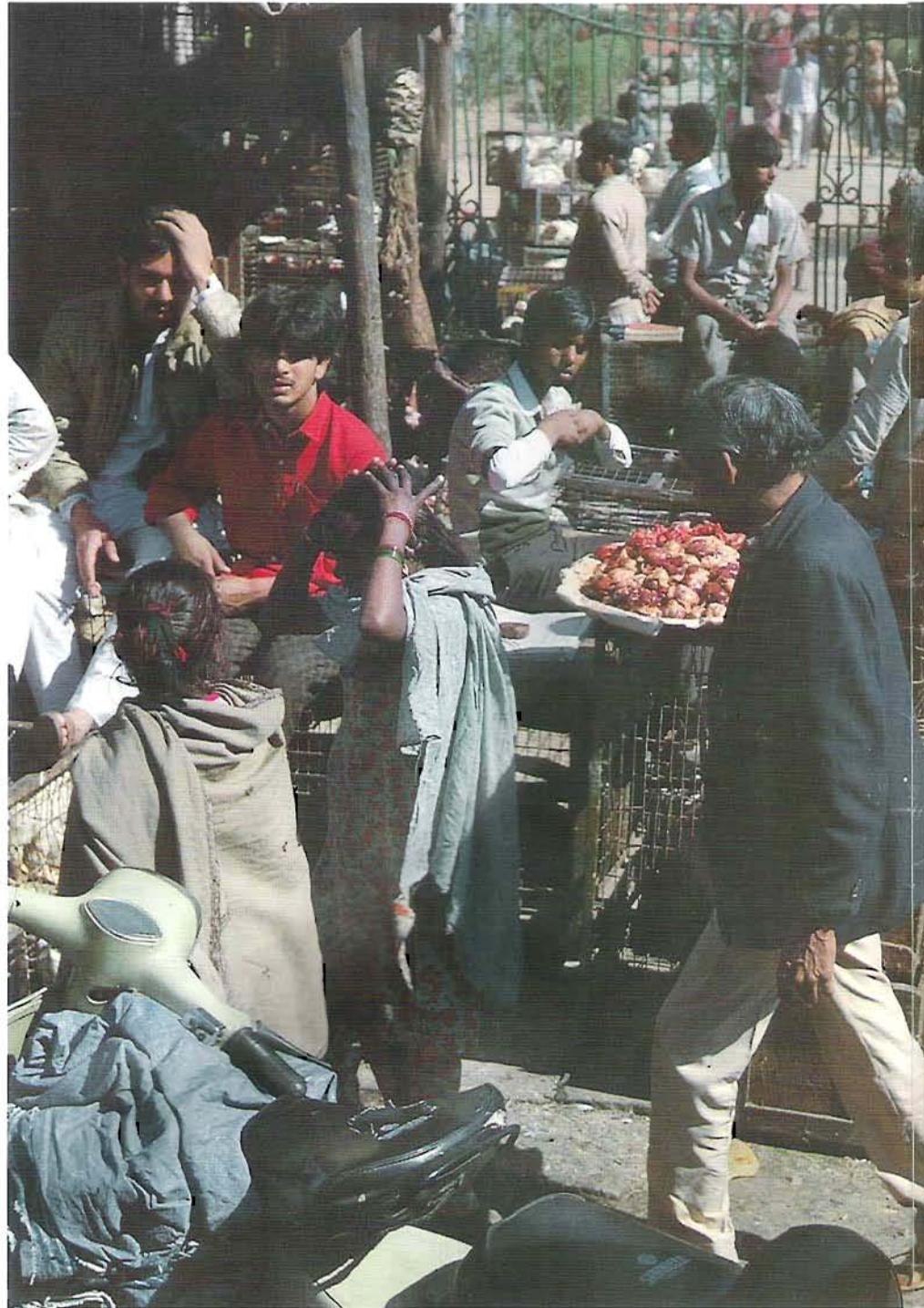




1990年7月、「ウダイプール現代ミニチュア画と版画展」が開催できたのは、
市民外交の成果。



この国でも子供たちは素直に感情を表現する。



雄然とした中に、インドのたくましさ、エネルギーを発散するデリーのバザール。



それからこの8月には、ウダイプールのヒンズー教寺院・シロマネ寺に、「市民外交センター」がオープンします！これはかねてから計画してたんですけど、染織や陶芸、木工といった京都の伝統工芸技術をインドの職人たちに伝えよう…というものです。例えばね、インドには和家具などに使われる高級木がたくさん産出されるのに技術がないので全く生かされていないんです。彼らに日本の技術を伝える、これも生きた市民外交でしょ？ 木工技術だけでなく、友禅や陶芸、茶道、和菓子…などもね。参加してくれる坊術者やボランティアを、いま募集しているんですよ。

インドの次？ ええ、いまタイのエンマイから問い合わせがある。印度でこれだけ成果が出たんだもの、

4月の環境会議では、初めて多くのマスコミが同席した。 彼らのネットワークをもつと強めたいね。

——4月に日本で最大の環境国際会議『地球再創造・京都会議1990』が開催されました。KOSAC(京都国際市民アクセスセンター)では、他3団体と共に共催ということで、準備段階から会議は始まっていたという情況だったと思います。そういうことも含めて、会議の成果はいかがでしたか?

クビアック この会議のそもそもの目的は、"地球を守るために人類そして

メディアは、いったい何ができるか"ということ。準備段階でアメリカの環境運動家が日本にやって来て、会議の方向性を話し合いました。そこで一番

問題になつたのがマス・メディア。つまり、マスコミの報道の仕方一つで一

般の人たちは物事の見方を決めてしまふ、というのが現実なんです。だから、マスコミにもっと地球サイズでの認識を喚起して、事実をしっかりと報道し、人々に判断の材料を、現実を、提供してもらいたい。これがすべてじゃないけれど、大きなテーマでしたね。

とはいってもね、そうそう簡単にはいかない(笑)。こうした大きな会議となると、マスコミにも縄張りがある。日本の取材の大さり、自分の会社のメンツが大切。どこが後援するかによって、それ以外のマスコミは参加しないとか、記事を書かないなんてね、でも、今回は多くのマスコミが乗つてくれた。こんなことは、日本で初めて

じゃないかな。

アトキンズ 私もKOSACの一員として、企画段階から参加していました

が、そういう傾向はマスコミだけじゃないんですね。日本全国に環境運動とか市民運動とか、いわゆる草の根運動はたくさんあります。でもね、こうした運動にも派閥がある。同じ問題を取り上げていても、お互いに連絡し合わないし、それを避けているみたいね。

制度的にすごく根強いこの障害を越えてね、マスコミにも一つのネットワークを築いておきたい。京都会議はもともと行動を起こすための会議ですからね、すべてはこれから始まる。

アトキンズ 会議には、海外のエコロジストやジャーナリストもたくさん参

パートナー シドニー・アトキンズさん

1947年、アメリカ・イリノイ州生まれ。

コロンビア大学東洋学部在学中、ベトナム戦争時代に陸軍の韓国語通訳。

以後、反戦運動に取り組む。

1978年、アジア諸国を旅し、初来日。

コロンビア大学および大学院に戻り、環境問題・地理学・東洋学を学ぶ。

1981年、京都大学に留学。日本とアジアの水問題をテーマに現地調査と研究。

現在、関西の大学、短大で講師を勤めるかたわら、

アウトドア活動や自然環境保護運動に参加。KOSACのメンバー。



KOSACと緑の地球防衛基金、エルムウッド研究所、グローバル・アクションの4団体が共催。



Phase I 地球再創造にむけた環境市民とアーティストの会
Renewing the Earth



「地球再創造・京都会議1990」は、4月7・8日に京都国際会館を中心に開催された。

クビアック 日本企業が海外で行っている自然破壊についても厳しい意見が出た。私としては、いいことの一つだっただけね(笑)。

熱心だけど、その裏で東南アジアなどの森林や河川を破壊している。マスコミが開發に携わってる企業と士農工商

もいろんな意見が出されたね。これまでのマスコミは消費社会のイデオロギーを伝達していた。しかし、環境破壊の現状をもっと広く一般に警告できるのもマスコミだ。マスコミはスポーツの意思に反する番組が作れない立場にある。事実を報道するはずのリポーターの価値観が「白人・中流階級の男性」の典型だから、市民運動の本質を伝えていない。えと、アジアからの声もありました。マスコミは、環境破壊の現状はリポートするけれど、明らかにそれが予測される場合でも、事前に問題にはしない。すべてが後手後手の対応だつて。ジャーナリズムは、常に世論をリードしていく立場でなきやね。

クビアック ところが、僕らは日本で税金を払っているけど、投票権も何もない。なのに公害やら教育問題を同じように被っている。

アトキンズ だけど、我々白人は、日本人に比べると自由な立場にあるんですね。欧米人に対して、日本人は寛容だから、わりと融通がきく(笑)。よくない現象だけどね。

加しました。マス・メディアに対してもいろいろな意見が出されたね。これまでのマスコミは消費社会のイデオロギーを伝達していた。しかし、環境破壊の現状をもっと広く一般に警告できるのもマスコミだ。マスコミはスポーツの意思に反する番組が作れない立場にある。事実を報道するはずのリポーターの価値観が「白人・中流階級の男性」の典型だから、市民運動の本質を伝えていない。えと、アジア

アトキンズ そうそう。アメリカでは昔から“政府の中に自分たちの代表者がいないと、税金は払わなくていい”といわれてる。つまり、税金を払うからには、政府に声が届かなければいけないんです。

前を公表して批判しないと、何も変わらない。彼らのために、日本人全体が国際的犯罪者にされてしまうって。一度には無理だと思う。でも、少しずつ変わっていくてほしい。それにはね、僕たち在日外国人の力をどうやって使うか、課題ですね。



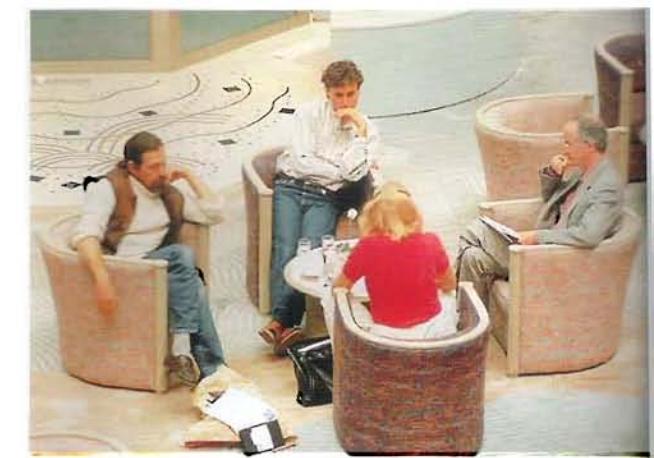


僕らは“外人部隊”(笑)。 いま、何がおこっているのかを正確に知らせるのが役目です。

もいい現象じゃないけどね(笑)。

あのね、石垣島の新空港問題も、島ではすごい論争になつたけど、全国レベルにまで広がらなかつた。知られるようになつたのは、アメリカ人の女性の生物学者が調査したり、インタビューに応えたり…と、うるさいくらいに行動したから、それでようやく政府も目を向けてきた。

日本をよく知つてて、日本語もうまいし、日本で何年も勉強したうえで、ほんとうに日本を好きな人が、声を上げたら大きな力になりますよ。日本に文句をいうからつて、決して日本が嫌いなわけじやない。好きで住んでいるからこそ、いわなければいけない。



「京都会議1990」の打ち合わせ。

アトキンズ うん、市民運動とか環境問題でも、地元の人たちが燃え上がっていても、中央に届いてないものね。運動の効果が出ていない。でも、外国人が関心を向けてきたら、外国の新聞に出来たりしたら、効果も出てくる。これもできる。だって、日本に入つてくる情報が10としたら、出て行くのは1ぐらいでしょ。だから、僕たちから情報を出して行こうよ。



ゴルフ場建設反対運動のメンバー。

クビアック だからね、「日本国内外圧協議会」を作ろうとしてるのね。要するに「外人部隊」(笑)。在日外国人だけでなく、いろんな人が参加してくれてる。上野千鶴子さん(京都精華大・助教授)とか、マスコミの人、活動家もね。僕らは火付け役つてところかな。つまり、実際に動いている活動家に照明を当ててほしいからね。

アトキンズ その外人部隊の最初の行動が、京都・京北町のゴルフ場開発。ここは、ほんとうにきれいな山村ですよ。ところが、そこにゴルフ場の造成申請が4件も出てきて、そのうち1件に許可が出た。

クビアック あれはひどいですよ。その1件の名誉会長的存在が、裏千家の家元。その他にも、茶道雑誌の出版社



ゴルフ場の建設予定地である京都・京北町の農家の人たち。

や環境汚染の測定器の製造会社、商工會議所の役員……がズラリ名を連ねている。信じられないよね。みんなタテマエでは美しい自然を……とか、環境破壊を憂えてるの！なのに山を削つて、ゴルフ場を作る。川も田んぼもだめになる……。ひどいもんだね。金もうけのためだけに……。金持ちの遊園地がそんな

アトキンズ とにかく、秋までには必ず勝利にもつて行きたいね。
ほら、クビアックさんが外人部隊のことをうまくいってたでしょ。私たちは白血球なんだって。

クビアック そう、血管の中を白血球が自由に行動できるのは、外国人の立場と一緒。体のどこかにキズがついたら、それを直すためにヒスタミンとい

う分子が出てくるの。同時に痛みも起こす。この痛みは、神経機能に“いま”ここが悪い”という信号を出すんです。白血球は数が少ないので、キズを直すには十分でしょ。そして、いま何が必要かを痛みとともに体に伝える。つまり、僕たち外国人は、いま起こつて



僕たち外国人は、白血球ですよ」とクビアックさん。

だということ。

僕はいつもいつてるんだけど、もつと情報の公開をしてほしい。そして、市民レベルでの問題、環境問題とかね、それは市民の決断に任せてしまい。ほんとうの立法権・投票権がない状態だからね。それが、僕らがみんなに知りせいきたい究極かな……。

アトキンズ 情報の公開という点では、日本のFM局はほんとにないに等しいね。アメリカでは、ベトナム戦争当時、ネットワーク放送は、ほとんど政府の意向どおりの放送を流したけど、FM局では、いろんな人がいろんな立場で発言していたし、ヨーロッパやアジアからの情報も入って、非常に影響を与えたんですね。放送局が多いだけでなく、個性がある。音楽もさまざま、文化情報も豊富だから、選択の自由がある。

クビアック だから、日本でもいろんな意見が聞けるといいんだけど、いまは、体制側の意見しか出でていない。

日本の行政は、ほんとうに市民、国民を信用していないよ。僕は以前に京都でネットワークの仕事を頼まれたんだけどね。国際交流会館の中で国際情報施設をつくつてネットワークをぜひ取り入れたい——というんで、市役所に説明に行つたの。ところが！ お役所がいうには、”外国から情報が入ってくるのはいいけど、市民が自分の発言を自由に流すのは困る”。ネットワークの基本とは何かを分かろうとした。市民の声は聞きたくないというからあきれてしまった(笑)。

“長良川運動”は、川と親しむことを重視したから、とっても明るい。ぜつたい成功するよ。

こうした市民の声を聞くということを思い出したんだけど、アメリカに『チルドレン・エクスプレス』という通信社があるでしょ。本部はニューヨークで、地方に12カ所の支部があります。ここまで普通だけど、実際に取材したりするのは、9～15歳の子供ばかり。大人は一切手を出さない。毎月、本部でテーマを提示し、それぞれの支部で子供たちが思い思いに記事をつくるわけ。“麻薬”“老人”“いじめ”…とかね。最終的にその記事が本部に集められ、さらに編集されて全国通信ネットワークにのせて、320ほどの新聞に転載されます。これは、すごい。子供のやることだから…と、いい加減じゃないよ。政治家の記者会見で、一番恐れられた聞き手は、この子供たち。だって、何のタテマエもないし、10年後、15年後、彼らが大人になるときに、その政策でどういう状況になつているのかを聞いてくるんだから。政治家は答えられないよ(笑)。

アトキンズ 確か、日本でも読売新聞

が同様の試みをしたっけ。でもこれは、大人の息がいっぱいかかるって、感想文くらいの記事にしかならなかつた。でもね、今度の京都会議の結果、ここ1年で実行する活動計画に入つてるんだよね。“子供たちが取材・報告し、編集する新しい青少年のメディアの創設など、あらゆる段階の教育期間にお



ロッキー山脈で、一人で約5年間自給自足生活をしたこともあるアトキンズさん。

ける環境やメディアに関する教育を通じて、この分野への子供たちの積極的な参加を促進する”とあります。また実現するには、そう簡単にはいかないだろうけどね。

——さて、現在進行中の環境運動に

ついて伺いたいんですけど…。アトキンズさんは、山登りや沢登り、またカヌーでの川下り…と、自然と体中で親しんでいらっしゃいます。いま、長良川河口堰問題に力を入れておられると聞きましたが、どういう状況にあるのでしょうか？

アトキンズ

10年前に留学生として再

び来日したとき、地理学の出身ということもあって、川に興味を持ったんですね。自然学的にも川を見るけど、もっと人間と川とのかかわり、人間と土地と水の関係に注目したの。日本はもとより、韓国、中国、タイ、インドネシアで調査もしたしね。昔、日本では土地と水をうまく生かして暮らしてきた。水運や農業用水、かんがい用水の技術なんか、東洋でも一番優れてたんだ。日本にひかれたのもそこだつたし。ところが、いまの日本は…“無理やり自国の自然の遺産を破壊してしまうのか”って落ちこんじやつてね。学問の面から考えるのはやめました。学問だけじゃ力にはならない、”運動



をしなくちゃ”と痛切に感じたね。そのころ、釣り師の天野礼子さんやカヌーイングの野田知佑さんとも知り合つて、本格的に活動を始めたの。

1年前くらい、長良川にダムがで

きると聞いたときは、洪水災害を防ぐためならやむを得ないと思ってたんだけど、調べてみるとね、ダムの必要性は全くないって分かった。あのダムは、

ダム建設業者の利益のためだけにある。ダムを造るためにダムを造る(笑)。20~30年前には長良川程度のいい川は、日本にもたくさんありました。でも、いまじゃ生態系が健康な状態にある川は、長良川くらいですよ。

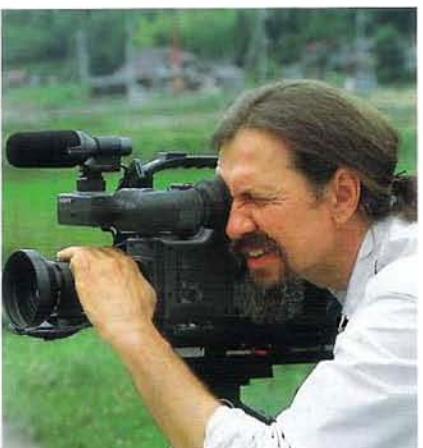
クビアック『長良川河口堰に反対する会』だつたつけ。ついこの前も、6千人も集まつたつていってたでしょ? そこまで全国レベルに盛り上がったのはすごい。それはなぜかというと、あの運動は、これまでの日本のやり方とは違つていたからでしょうね。

アトキンズ 僕らの外人部隊じゃないけれど、長良川の場合も有名人を表に

出してるの。作家の椎名誠さんや、野田さん、天野さんとか…、TVや雑誌でよく見かける人たちが、真剣に参加してくれて、いい効果が出てきたね。国会でも取り上げられ、議員23人で“長良川河口堰問題を語る会”ができて、“一時的な工事中止”と“公聴会の開催”を提案してきた。もう間もなく動きが出てくると思うよ。

私個人としてはね、当初はすごく悲観的だつたんだけど、“日本人がやつてる限り、私もやる!”と腹に決め、自分のできる範囲で海外の新聞や雑誌に記事を書いてきた。それにね、この運動のやり方は、すごく明るいの。カヌーで水上デモをやつたりね、もう私向き(笑)。つまり、川そのものに関心を持つ…ということに重点を置いてるの。やみくもに“反対! 反対!”じゃなくてね。体で感じさせてくれるのはいいね。いまじゃ、これは絶対に成功したら、いろんなところで影響が出てくるよね。

クビアック アメリカでの運動のやり方がそうなのね。日本みたいに絶望的



市民運動のために、ときにはカメラマン役も。



暇があれば、山や沢を登るアトキンズさん。



カヌーで水上デモをやるなど、長良川河口堰反対運動は、運動のやり方がとても明るい。



「他のアジア諸国で、いまのような運動をしたり、意見をいったりすれば、すぐに追い出されるよ。」



フォークシンガーをしていたことも。

長良川の問題が解決したとするでしょう。でもね、それは全体の病気の一つの症状なんです。健康をとり戻すには、根本の病原菌をやつつけなければなりません。つまり、それが大企業や政府だったり、国民の手に立法権や投票権をとり戻すことだつたりするわけ。そんな意味で、シドニーの仕事は大切。

海外の環境に関する雑誌やEnvironment Monitor（日本環境報）などに記事を載せてている。これはそれを置くところ、見る人によって、すごい影響力を与えるね。そう、ちょうど、鍼灸と一緒に（笑）。ツボに刺激を与えると、病気が快方に向かうでしょ。力の大きさじゃなくて確実さが肝心。その点、長良川問題も、的を射た運動をし

ていいんだと思うね。

アトキンズ クビアックさんは、医学的なイメージとか考え方が多いですよ（笑）。私自身、地球全体はもちろん、国とか村とか都市とかを考える場合、生物学的な立場から取り組まねばならないと思うんです。でも、現代の大企業社会の考え方は、非常に物理的。單純でとても機械的な考え方方が世界中にはびこってるけど、実際に生命とは、社会とは：と考えた場合、制度的な考え方ではない。その点、クビアックさんの医学的な考えはよくわかるし面白い。我々が使っている言葉とかイメージが、我々の宇宙をつくつているわけ。意識をもつと広げるようイメージを使いわけなければならないよ。考え方そのものが、意味深く、問題になっているんです。

クビアック これからの環境というものは、国とか企業の規模で考えるんじやなくて、もっと身近な自分の周り、つまり、家族や町内規模で考えるべきですよ。そして、もう一つは地球全体。



アトキンズさんが記事を書いている新聞。

地球というのは、すごく母性を感じさせるから、ほとんどの人が理解できるからね。地球と自分の周り、その間はいらない！ そう、企業や組織規模での考え方はもういりません。国際化より、地球化——いまは、そういう時代ですよ。

アトキンズ そうなんです。しかしねえ。私たちは日本で運動を起こしてるけど、よその国で外国人がこんなふうに運動をしたり、意見をいつたりできるのは珍しいよね。アジアの諸国でこんなことをしたら、すぐ追い出されるよ(笑)。私は、韓国やタイ、インドネシアで調査活動をしてきたから分かるけど、こんなことできないよ、とてもじゃないけどね。それを許してくれる日本は、我々としたら、とっても歓迎すべき国かな…。

クビアック ま、民主主義の手前、タチエ工として僕たちの活動も守らなければならぬからねえ(笑)。だから、日本は見込みがあるよ。

日本人が面白いのはね、お年寄りでも個人として話していくと、いろんなことを教えてくれるでしょ。外国人相手ということもあるんだろうけどね。ものすごく情熱があつてね、政府が悪いとか、あれがどうとか…(笑)。ただ、彼らの意見が届かないのが問題ね。

アトキンズ 自然破壊とか環境問題を考えた場合、日本人は昔から自然とか四季を暮らしにうまく取り入れてきたでしょ。でも、現代人を見てると、どうも自然と付き合うのがヘタみたい。私の場合、アイダホのロッキー山脈の奥地で、5年間ほど一人で自給自足の生活をしたことで、すごく影響も受けた

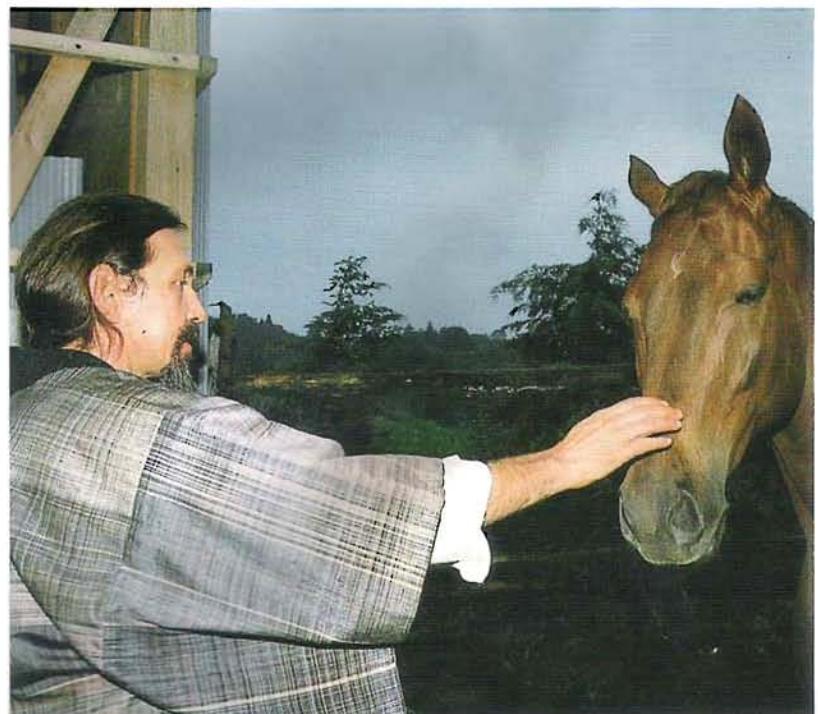
これからは環境を自分の周りと地球全体で考えるべき。 いまは、そういう時代です。

んだけど、別にロッキーだからすごいんじゃないよね。日本にもほんとに素晴らしいところがたくさん残ってるよ。北海道の大雪山もそうだしね。京都だって周りは山でしょ。ま、私から見ると丘だけど(笑)。日本の自然に私はすっかり惚れこんだ。暇があれば山に登るし、沢登りもする。カヌーでのんびり急がずに川を下る…。ほんとうにぜいたくな遊びです。日本の人にももっと親しんでほしいんだけどね。

クビアック 僕の息子たちは、山の牧場のおじさんと仲良しでね。毎月1、



山下牧場のおじいさんと。



京都・山下牧場で。

2回は馬に乗りに行つてるよ。行くたびに思うんだけど、そこで出会う日本人、特に若い女性なんかね、山の中だとういうのに街中と同じ服装で来てるの。ハイヒールでね(笑)。見ると、2種類の人人がいる。街着の人と、すごい装備の人。エベレストに登るんじやないよ(笑)。山や自然との接触を求めているんだけど、親しみたいと思ってるんだけど、表現の仕方がヘタクソ。

アトキンズ 変な話だけどね、奈良の山辺の道を私は何度も案内しました。もちろん日本人を(笑)。歴史とか風土

とか詳しく説明してね。日本人は自分の国を楽しむ時間もないし、やり方もほんとに知らないんです。

これは、いま大阪の鶴見緑地で開催されている“花博”を見ててもそうね。

昔は美しい緑地だったところを、6割も破壊してしまったでしょ。それで花と緑をうたうんだから、信じられない。何を考えているんだろう。

クビアック まったくね。政府と企業は、外国で問題になつている環境破壊をカバーするために、自然崇拜しているゾ！といつてゐる。日本の政府館に入つたらよくわかるよな。全体の面積の半分以上が科学技術コーナー、3分の1が都市の環境コーナー、肝心の自然コーナーはほんのわずか。中に入る人、屋久杉のでつかい切り株がドンとあって、人が集まつてゐるけど、あそこには生きている自然は一つもないの。



花の万博には、生きている自然がない。みんな標本の中の自然ですよ。

みんなプラスチックで囲まれてたり違えているみたいね。

アトキンズ 企業館を見ても一緒ね。

確かに科学技術を駆使して、夢を見せてくれるかもしれないけどね。ちょっと視点が違うんじゃない？ ついていったいよ。でもあれだけ大勢の人が入場してるというのは、日本人は何を期待して出かけているのか。花と緑をとにかく盛り込めばいいのとは違うよね。ほら、夏になつて虫が集まつてくるからって、電気で殺虫しちやつたじやない。スズメもこうもりもツバメも昆虫も殺されて…。生態系をめちゃくちゃにするのが博覧会なんだなあ、とつくづく思つたね。早く目覚めてほしいよ、意識を変えないと、自然破壊は止まらないんだから。

読者が見た東方見聞録



R・ゼンゲージさんは、日米をまたにかけて活躍する第一線のビジネスマン。それだけに、日米経済や企業に関する見解は示唆に富んでいました。ところが、意外と関心を集めたのが、「日米・教育の長所と欠点」。「高校は詰め込み、大学は遊びという現状を早急に改善しなければ」と「高校は日本、大学はアメリカへ留学するのがいいのかな」「外国の大学の日本分校で教えている外国人教師の意見を聞きたい」などの声が届きました。

また時代性も反映して、「ゴミとリサイクル」が反響を呼びました。「カナダのガレージセールとゴミの分別収集に感心！」資源保護とムダをなくす合理的な考え方を見習わなければ痛感」「ゴミの問題つて、一人ひとりが気をつけなければね」…。

さらに今後聞きたいテーマでも、数多くの人が環境問題を取り上げてほしいと訴えています。第16号では、編集部もかねてより環境問題に取り組みたいと考えていまして、読者の皆さんのご意見と一致したわけです。

その他、米の自由化、高齢化社会、ボランティア活動、21世紀の日本の方などについて聞きました。